

### 現状

#### ○本県若年女性(15~29歳)の転入転出の状況

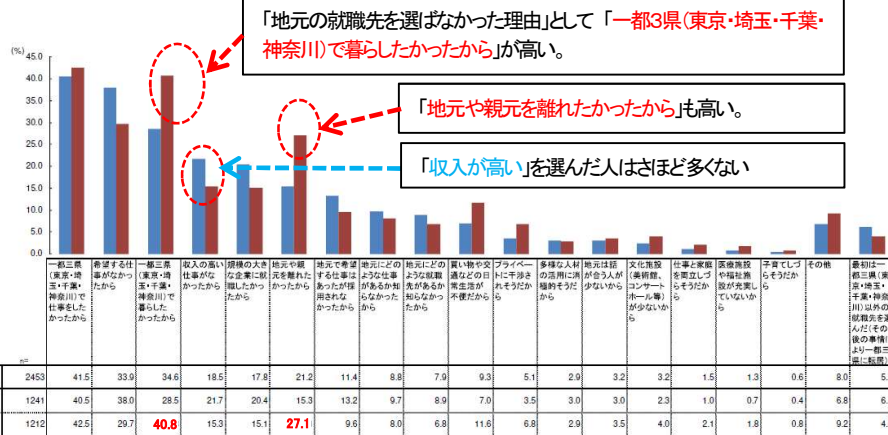
	若者人口※1	転入転出者数※2	転入転出率	全国順位
R2	63,000人	▲1,741人	▲2.8%	42位
R1	63,000人	▲2,138人	▲3.4%	44位

※1「人口推計(H30)・(R1)」(総務省による日本人人口(15~29歳)(各年10.1現在)

※2「住民基本台帳人口移動報告(R1)・(R2)」(総務省)によるR1・R2の転入転出数

R1から転出者数が減少し、全国順位は上がったものの依然として高い転出率となっている。

#### ○地元の就職先を選ばなかった理由



出典:「東京圏に転入した若年者の『働き方』に関する意識調査」(平成27年10月)(内閣官房)

#### ○大学生の希望職種

	全体	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子
総務・経理・人事などの管理部門	15.1%	18.6%	4.2%	24.3%	5.3%
営業企画・営業部門	26.8%	45.6%	9.2%	29.0%	10.7%
商品企画・開発・設計部門	15.0%	11.3%	15.9%	14.4%	23.6%
広報・宣伝部門	4.6%	4.4%	1.2%	8.5%	1.9%
海外営業などの海外事業部門	2.7%	2.9%	0.9%	4.6%	1.1%
研究・開発部門	8.4%	0.8%	22.4%	0.5%	18.9%
調査・企画部門	2.4%	2.5%	2.8%	2.1%	2.0%
製造技術・生産管理部門	4.3%	1.1%	11.7%	0.6%	7.0%
情報システム部門	6.3%	3.4%	15.6%	2.2%	5.7%
技術サービス部門	3.9%	1.4%	9.3%	1.4%	5.6%
その他	10.5%	8.1%	6.7%	12.5%	18.2%

出典:「マイナビ2022年卒大学生就職意識調査」

文系女子では管理部門や営業部門、理系女子では商品企画開発や研究開発部門を志望する大学生が多い。

### 課題

女性が活躍できる場の創出・拡大

進学前からの県内就職に向けた意識醸成

就職時の県内就職・定着のための情報発信を強化

無意識の偏見や思い込み(アンコンシャス・バイアス)の解消

女性が安心して働ける職場や家庭の環境づくり

Uターンや移住・定住の促進

### 令和3年度の主な取組み(基盤づくり)

■女性に魅力ある雇用の受け皿づくり!  
○若年女性の働く場となるデザイン業、ソフトウェア業等の誘致を強化【工振】

■小中高の段階から意識醸成!  
○学校における地域の人と関わりながら地域の魅力について学ぶ機会の充実【教育庁】

■若者の目につきやすい企業PRの推進!  
○若者がスマホで視聴できる企業PR動画作成支援【雇用】

■山形の女性のリアルを発信!  
○女性の県内定着・回帰に向け、女性の意見を聞く「オンライン100人女子会」の開催及び女性視点からの魅力発信【子育て部】

■緊急に若年女性の賃金の引上げ!  
○非正規雇用労働者の賃金を上げた事業者及び非正規雇用労働者を正社員に転換した事業者に対し、対象となる若年女性労働者数に応じて支援金の支給【雇用】

■山形への移住を促進!  
○効果的な魅力発信による人的ネットワークの形成など、移住に向けた本県との継続的な関わりを持つ関係人口の創出【みらい部】

### 今後の方向性(更なるステージへ)

山形県で就職してもらおう

離職せず山形県に定着してもらおう

山形県に戻ってきてもらおう

県内企業の魅力発信力の一層の強化

若者が魅力を感じる職種での女性の採用促進

女性労働者の処遇改善・賃金向上

女性活躍に向けた経営者の意識改革

女性が長く働ける職場環境づくり

兼業・副業の促進